

令和6年度 東京都立石神井高等学校 学校経営報告

校長 藤 野 泰 郎

1 本年度の総括

本校は、「チーム石神井で文武二道の両立を！」のスローガンのもと、学力の確実な定着による進学実績向上、部活動の一層の充実、そしてその基盤となる基本的生活習慣や規範意識の醸成を目指し取り組んできた。学力及び人間力をどこまで高めることができたのか、その成果と課題をここに報告する。

2 令和6年度における教育活動への取組と自己評価**(1) 学習指導****① 授業規律の遵守と主体的・対話的で深い学びの実践**

授業規律を徹底し、チャイムと同時に授業を開始し終了する等50分の授業時間を大切に学習環境を構築することにより、授業に取り組む姿勢を向上させた。また、日々の授業観察の観点に、本時のねらいの明示と主体的・対話的で深い学びの実践を導入したことにより、ペアワークやグループワークなど協働的な活動やスマスク端末の活用等主体的・対話的で深い学びとなるよう探究的な学習への取り組みが多く授業で見られるようになった。

② 基礎的・基本的な学力の定着と応用・発展的な学力の向上を目指した指導

I C T機器を活用した授業は定着し、生徒の学習に対する関心・意欲を高めるとともに、Teams やForms の活用による週末課題の提示や授業ごとの振り返りは基礎的・基本的な学力の定着と共に応用・発展的な学力を向上させた。また、様々な学習コンテンツやデジタル教材を活用しながら全校体制で実施したオンライン授業は、災害・感染症等で登校できない生徒に学習を保証することに繋がる成果である。今年度より海外学校間交流推進校における外部検定試験の活用に係る「一次試験の可否にかかわらず4技能が全て測定できる英検」を公費負担で生徒に受検させることができ、全校生徒で実用英語検定準1級合格者を6名、2級合格者325名、準2級合格者329名出すことができた。

夏季休業中の講習期間は、部活動を制限するなど生徒の学習機会の保証を行い全校体制で行っている。その一方で、開講講座の内容を含め、生徒の進路希望と実態に即したものに改善していく必要がある。また、自主学習の体制は今年度も課題となっている。1学期は朝早くから登校し、夕方遅くまで自習室で勉強している生徒も昨年度より増加したが、2学期に入り大学受験が迫る時期になると、自宅や学習塾で勉強する生徒が増え、自習室を利用する生徒が減少していった。次年度は生徒が学校で継続的に学習ができるように、自習室の再整備を含め、例年設定している学年数プラス1時間以上の学習時間という目標を達成するために、引き続きスキマ時間の活用を生徒に定着させ、ソフト面でもハード面でも、自学自習環境の構築が課題である。

(2) 進路指導**① 確かな進路選択に向け早い時期からの生徒の意識向上に努める**

1年次より計画的に行っている大学と連携した進路ガイダンスは、生徒の進学意識の向上と共に学習に取り組む態度を向上させた。それに伴い保護者の意識向上のため、進路指導部主催の保護者対象進路講演会を各学年学期に1回以上実施した。特に1・2年生については、大学入試情報等を含めた情報を保護者にも提供することにより、早い段階から進学に向けた意識を向上させることにつながった。また、保護者向けマナー講座を充実させ、一般受験を志望する生徒・保護者にとって、受験にかかる費用についても啓蒙を図り、保護者からは高い評価を得た。生徒に対する進路指導は、「総合的な探究の時間」を活用したキャリア教育を通し、3年間を見据えて各学年段階に応じた大学等と連携した進路ガイダンスや授業体験を行い、高い進路目標を設定することができた。また、定期的に発行した「進路ニュース」は、生徒の希望進路実現に向けての意欲を高い次元で維持させた。一方教員も、模試分析会を行い、明確になった各教科の強みと弱みを基にした授業改善を行い、生徒の希望進路実現に向けて取り組んでいる。加えて、他校の優良実践の導入や新しい取組を始める等教員の意識も変化してきている。分析会への関係教員のより一層の参画が今後の課題である。

② ねばり強く取り組む意欲を育て、生徒の希望する進路実現に努める

模擬試験の結果分析などを進路指導部・学年の連携で行い、分析結果を個人面談や三者面談、学年集会で生徒へフィードバックし、個々の進路指導に役立たせた。難関国立大学（東京科学大学）合格者数1名、国公立大学合格者数15名、早慶上理決定者数12名、GMARCH決定者数133名と、高い次元で生徒の希望する進路を実現することができた。

(3) 生活指導**① 生徒の基本的生活習慣や規範意識の育成と思いやりの精神の醸成**

生徒の生活指導については、外部、地域から高い評価を得ている。生活指導をしっかりと行っている学校を進学先として考えている中学生が本校を希望し、その希望者数は高い水準で安定しており、生活指導の充実が学力の向上及び進学実績の向上につながっている。一方で歩きスマホや制服の着装、遅刻に関して指導する回数が増えてきていることは課題である。また、自転車通学時のヘルメット着用については、朝の登校時には約85%の生徒がヘルメットを着用して登校するが、下校時には着用率が大幅に減少するという課題がある。引き続き命の大切さと交通事故防止について粘り強く指導を継続し、教職員が率先垂範しながら自転車通学時のヘルメット着用率を向上させ、交通事故防止に努めていく。

② 教職員あげて一層の生徒理解に努めるとともに、好ましい人間関係の構築を支援

生活指導部が教育相談を所轄し、特別支援教育コーディネーターを生活指導部から選任し、フットワークを軽くすることで生活指導と教育相談とが緊密に関わることができている。スクールカウンセラーによる新入生の全員面接を含め、特別支援校内委員会を研修会含め年間3回開催し、教員との相互連携や生徒情報の共有により生徒の心理的な課題を早期に把握し、課題を抱える生徒への対応を適切・迅速に行うことができている。通級による指導も充実し、今年度は1名の生徒が課題解決に向けて前向きに取り組んだ。また、特別支援教育等の研修への派遣を継続的に行うことで、教育相談に関する教員の意識を向上させることができている。いじめに関して、教職員一人一人がアンテナを高くし、些細な変化も見逃さずに学年会等で共有し、早期発見・早期対応を行うと共に、いじめに関するアンケートを学期ごとに実施し今年度も課題はなかった。学校サポート会議も、地域関係者の協力を得て、有効に機能している。

(4) 特別活動

① 学校行事、生徒会活動・委員会活動、部活動等の一層充実・発展を図り、生徒一人一人の資質の向上を図る。

体育祭・文化祭等の学校行事は実施計画どおりに開催することができ、体育祭では1800人以上、文化祭では3500人以上の来場者数となった。体育祭実行委員会や文化祭実行員等生徒の主体的な取り組みにより、石神井高校の伝統を継承すると共に、安心・安全を確保しての学校行事を実施することができた。短い準備期間の活用方法に課題が残ったが、生徒一人一人が「チーム石神井」の一員としての帰属意識を高め、学校を愛する気持ちと仲間を大切にする意識を高めることができた。次年度も良き伝統を継承し、一人一人の生徒が自己肯定感・自己有用感を持つことのできる学校行事として引き継いでいく。また、生徒だけでなく在校生の保護者や近隣の方々にも本校の取組を紹介できたことは、大きな成果であった。

美化委員会、保健委員会では、新型コロナウイルス感染症が5類に移行後も引き続きゴミの分別、手指消毒、換気の徹底、校内美化、トイレの衛生点検などを生徒主体に計画的に進めることができた。基本的な感染症対策として廊下の窓の開放と校内美化に努め、「グッドマナー石神井」のスローガンの下、清掃活動を行った。学校見学会や学校説明会等で来校された方から校舎が常にきれいであると高評価を得ている。

図書委員会を中心に、読書活動を推進させるため校内書評合戦「ビブリオバトル」を実施し、代表生徒1名が高校生言葉の祭典「高校生による書評合戦（ビブリオバトル）」東京都大会に参加した。図書貸し出し数は昨年度よりも増加しているため、更なる読書活動の推進が課題である。

部活動においても、ガイドラインに沿った活動を行う中、感染症対策を継続しながらも都大会ベスト16以上の部活動が5部、文化部においても美術部等各種コンクール等で優秀な成績を収めた。

年間3回の避難訓練と防災訓練は、生徒の災害時の行動指針となっており、緊急地震速報が流れた震度4の地震の際には、どの生徒も机等の下に入り自助のための行動をとることができた。

同窓会の協力援助のもと、長野県白馬村に所在する石神井黒菱山荘を活用して、自然体験、スキー体験を生徒に実施、自然への造詣とともに共同作業や責任など特別活動の本質ともいうべき能力の醸成に寄与した。

また、Teams、classi for schoolなどを駆使して東京都教育委員会の生徒参加事業への参加者を募り、多くの体験学習をさせることができた。

② 海外高校生等との交流の実施、異文化体験・理解の促進によるグローバル感覚の醸成

海外学校間交流推進校の指定を受け、4月と3月に台湾、7月にオーストラリア（8日間）、11月にアメリカ合衆国ハワイ州の高校生が来校し、授業体験、日本の伝統芸能体験等の交流を行った。また、11月に9日間の日程で本校の2学年の生徒4名が、都立高校生海外派遣研修でトルコ共和国に派遣され、異文化交流を体験した。また、教育庁指導部主催の東京外国語大学での「グローバルイシュー探究講座」に参加するなど、未知の体験を積むことにより、更なる知的好奇心を刺激し、様々なことにチャレンジする生徒が増えた。

(5) 健康づくり・体力づくり

① 学校生活を支える生徒の心身の健康づくりに対する取組み

外部講師を招いて薬物乱用防止・性暴力及び性感染症問題・性の多様性・癌教育をテーマにした講演会を開催し、生徒の健全育成を図った。また、スクールカウンセラーによる教育相談に係る研修、養護教諭による食物アレルギー対応や感染症予防、性的虐待防止をテーマにした校内研修をとおして、生徒・教員の意識向上を図るとともに、定期的に保健だよりを発行して生徒の心身の健康に対する意識を向上させた。産婦人科の学校医も継続して配置され、生徒の健康増進を一層推進するとともに、コンディションレポートや classi for

school 東京都版の活用により家庭と学校とで生徒の健康状態を共有し、見守り体制も大きく向上した。体育の授業で毎時行われる体づくり運動は生徒の体力向上に大きな成果をあげ、数種目で全国平均を上回った。部活動指導においては、科学的なトレーニングと健康管理を取り入れる等、個に応じた指導を実践し、生徒の体力づくりと健康づくりを増進した。

(6) 募集・広報活動

① 学校見学会・学校説明会等

夏季休業日中の5回の学校見学会、10月からの2回の学校説明会では、生徒の生の声や様子を見てもらうための工夫を行い、参加者からは大きな評価をいただくとともに、今年度も高い入学者選抜の倍率となり、本校入学を希望する中学生・保護者の期待に応える形で実施できた。また、学習塾や予備校主催の進学講演会や相談会、中学校での進路説明会に可能な限り参加し、本校の魅力を広く伝えることができた。

② 学校ホームページ・学校案内・ポスター等

本校の特色を表現するためのホームページとすべく、わかりやすい構成で、最新の情報を提供した。学校行事や特色ある教育活動、宿泊を伴う旅行的行事においては、日記形式をとり、更新回数を増加させ、生徒・保護者はもとより、広く都民に本校の教育活動を示すことができた。学校案内は前年度から作成を始め、5月連休明けに完成し、ポスターと合わせ中学校や学習塾等に配布できた。今後も早期完成を目指して、より早く情報発信ができるよう、広報活動全般に取り組んでいる。

(7) 学校経営・組織体制

① 学校や生徒に関わる課題に迅速、かつ効果的に対応できる組織体制を構築する

企画調整会議を学校の基軸とした学校運営を行い、分掌主任、学年主任の経営参画意識を高め、高い水準で職責を全うし、組織的に課題発見及び解決を図る取組を実践した。各分掌と学年の分掌担当が連携を密にし、進路指導においては、効果的な模試分析会を実施するなど、大きな成果があった。また C4th に関する連携も密にすることができ、調査書発行や成績処理において、大きなミスをすることなく組織的な対応をすることができた。特に、職員室に大型のデジタルサイネージを設置したことが教員の意識向上にも大きく寄与した。経営企画室は、積極的の経営参画を行い、予算の編成・執行、業者選定、入学者選抜における資格審査・人員報告、授業料及び学校徴収金関係等において緊密な連携を図り、遺漏なく事務処理を行うことができた。

② 教職員の行動改革と資質・能力の向上を図る

多くの授業で I C T 機器を効果的に活用した教材開発と授業改善が進み、教育のデジタル化に向かって進んでいるが、スマスク端末の効果的な利活用について、更に進める必要がある。情報セキュリティー（個人情報管理）やサービス等に関する校内研修を計画的に実施し、教職員のサービス遵守に関する意識を定期的に高める取組を行い、教育公務員として資質能力を向上させ、サービス事故を起こすことなく業務を遂行できた。教科主任や主幹教諭・主任教諭が中心となり、若手教員に対する O J T を実施し、授業及び分掌業務においてより実践的な力を養った。また、若手研修・中堅研修を活用した授業研究や授業力向上に関する校内研修、年3回以上の相互授業見学には多くの教員が参加し、若手・中堅教員の授業力向上にとどまらず、参加したベテラン教員も新たな取組を始める等、石神井高校全体の授業力向上を図ることができた。

ライフ・ワーク・バランスに関しては、職員会議及び企画調整会議のペーパーレス化により会議時間を短縮させた。また23名の部活動指導員の任用により、部活動の盛んな本校において部活動顧問の負担を軽減させることができた。それと同時に、休暇を取りやすい環境を構築し、男性教員が育児休業や出産支援休暇、育児参加休暇を取得するなど、ライフ・ワーク・バランスを推進した。更にライフ・ワーク・バランスを重視した働き方改革を推進し、時間外労働時間の削減に努める。

3 重点目標と方策および数値

表 重点数値目標と結果

重点目標と方策		今年度結果	目標値
(1)	授業規律の遵守を徹底するとともに生徒の興味・関心を喚起し、意欲的・主体的に学習活動に取り組めるよう授業内容、指導方法、評価の在り方を工夫・改善する		
	チャイムによる授業開始と終了、挨拶の励行など授業規律の徹底	100%	100%
	生徒による授業評価、学校評価における授業に対する満足度	74%	90%
	夏期の補習・講習の開講講座数（前・後期1週間ずつ）	54講座	60講座
	夏期の補習・講習の参加生徒数（延べ数）	2,552名	3,200名
	資格・検定等合格者数（実用英語検定準1級）	6名	7名
	資格・検定等合格者数（実用英語検定2級）	325名	105名
	資格・検定等合格者数（実用英語検定準2級）	329名	140名
(2)	自主学習時間1時間未満の生徒の割合	16.0%	5.0%
	自己の適性を見出させて確かな進路を選択させ、現役での希望進路の実現を支援する		
	現役生で卒業時の進路未決定者（「進学準備」以外）率	1.1%	1.0%
	現役4年制大学・短大進学率	94.5%	80.0%
	現役GMARCH合格者数	133名	120名
	現役国公立大学合格者数	15名	15名
	現役早慶上理合格者数	12名	20名
	現役難関国公立、医学部合格者数	1名	1名
(3)	現役共通テスト受験率（実受験者／在籍者）	93.7%	90.0%
	現役共通テスト結果（全国平均突破）	11科目	全科目突破
	全教職員が一体となった組織的な取組により、基本的生活習慣と規範意識の定着を図る		
	一日あたりのクラスの平均遅刻人数	0.98人	0.3人
	特別指導件数	0件	0件
	生徒に関する学校事故件数	0件	0件
(4)	生徒に関する近隣からの苦情件数	3件	0件
	部活動及び国際交流の一層の充実を図る		
	部活動加入率	98.1%	95.0%
	都大会入賞、ベスト16以上の部数	5部	5部
	オンライン（対面）による海外高校生等との交流	2回（4回）	5回
(5)	ショートステイでの留学生受け入れ	9人	2人
	健康づくり、環境衛生に関わる講演会を開催し、生徒の保健・環境への意識向上を図る		
	健康づくり、環境衛生に関わる講演会の開催	4回	3回
(6)	生徒会、美化委員会による「グッドマナー石神井」の取組	通年実施	通年実施
	学校PR活動の一層の充実を図り、本校を第一志望とし、意欲のある生徒の入学を目指す		
	学校見学会・説明会の参加人数	4,722人	4,350人
	ホームページの更新回数	330回	200回
(7)	入学者選抜（一次）の倍率	1.87倍	2.0倍
	研究授業や校内研修を実施し、あわせて相互の授業見学を推進することにより教員の授業力向上を図る。		
	全都に公開する研究授業・研究協議の実施回数	23回	20回
	デジタル機器を活用した授業の実践	90.9%	全教員
(8)	3回以上授業見学した教員の割合	89.1%	100%
	授業における図書館の活用などを通して読書活動を推進する		
(9)	生徒への図書貸出数	3,036冊	3,500冊
	教職員の働き方を改革する		
	年間、勤務時間外労働360時間を超える教職員	0人	0人
(9)	職員会議・経営企画会議のペーパーレス化	実施	実施

4 令和7度に向けた成果と課題

「チーム石神井で文武二道の両立を」をスローガンに、様々な教育活動に取り組み、石神井高校の教育活動が十分に浸透してきている。入学者選抜の倍率も高倍率を維持しており、入学者の成績も向上している。それに伴い、進学実績も年々向上し、生徒の意識も大きく変化してきている。教職員の組織的な対応や生徒会や部活動を中心とした生徒の自主的な活動、体育祭や文化祭といった学校行事を生徒主体で開催したことは、生徒の自己肯定感や自己有用感を高め、他者と協働し主体的に学ぶ力を大きく向上させた。さらに、スマホ端末を活用し、ICT機器やオンライン授業、TeamsやFormsを活用した教育活動を推進することで、生徒一人一人に応じた個別最適な学びを充実させた。国際交流に関する取組の充実は、英語の学力を飛躍的に向上させると共に、多文化共生社会創造への意欲、他者理解や思いやりの気持ち、新しい取組に挑戦する精神を醸成し、学びに向かう力を向上させた。また、国際社会の一員としての自覚を高め、自らの将来の進路選択に大きな影響を与えた。

入学者の学力が向上し、本校に対する都民や受検生の期待は年々大きくなっており、その期待に応えることは本校の使命である。学習活動の充実はもちろん、本校最大の特徴である部活動や特別活動の充実も一層図る必要がある。新学習指導要領の理念を具現化すべく、未知の課題に対して教職員の総力を結集して、解決策を模索しながら教育活動を展開し、高度に文武二道を実践していく。